

# 教育研究業績書

令和5年5月1日

氏名 青柳寛之 印

## 教育上の能力に関する事項

事項	年月	概要
1 教育方法の実践例 心理学研究観察法・面接法	平成24年4月 ～現在	観察法の演習方法について、授業担当開始時からビデオ教材を効果的に用いた。コロナ禍の2020年以降は、オンラインでも観察法の演習が可能な形に工夫した。
2 作成した教科書・教材 臨床心理査定演習Ⅱ（大学院） 心理的アセスメント2（学部）  心理学的支援法（学部）	平成30年10月 ～現在  令和4年9月～ 現在	ロールシャッハ・テストのコード化の要点をわかりやすく伝える教材を作成した。  教科書の内容をわかりやすく伝えるための教材を作成した。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
5 その他		

## 職務上の実績に関する事項

事項	年月	概要
1 資格、免許 臨床心理士（06429号）  公認心理師（35459号）	平成9年4月1日  令和2年10月15日	公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が認定する、心理臨床に関する資格  心理学的支援に関する国家資格
2 学校現場等での実務経験		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

## 担当授業科目に関する研究業績等

担当授業科目	著書、学術論文等の名称	単著 共著	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	執筆ページ数 (総ページ数)	概要
心理的アセスメント 1・2  臨床心理査定演習Ⅰ・Ⅱ	(学術論文等) 1. 身体像境界の二側面と自我機能-『境界』型の類別化による検討-	単	平成5年11月	ロールシャッハ研究XXXV	pp.109-121	フィッシャーとクリーブランドの身体像境界得点を用い、身体像の防壁の側面と浸透的側面の比率から「境界型」を4種に類別化し、両側面の組み合わせり方と自我機能の関連を検討した。
心理演習	2. 自己心理学からみたスチューデント・アパシー-その病因と人格構造-	単	平成8年3月	京都大学学生懇話室紀要第25輯	pp.19-28	スチューデント・アパシーの病因について、コフトの自己心理学の観点から検討した。当人の情緒的ニーズとかけ離れた過剰刺激が与えられる関係を病因として検討した。

様式第4号 (教員個人に関する書類)

<p>心理的アセスメント 1・2</p> <p>臨床心理査定演習Ⅰ・Ⅱ</p> <p>心理演習</p>	<p>(学術論文等)</p> <p>1. 身体像境界の二側面と自我機能-『境界』型の類別化による検討-</p> <p>2. 自己心理学からみたスチューデント・アパシー-その病因と人格構造-</p>	<p>単</p> <p>単</p>	<p>平成5年11月</p> <p>平成8年3月</p>	<p>ロールシヤッハ研究XXXV</p> <p>京都大学学生懇話室紀要第25輯</p>	<p>pp.109-121</p> <p>pp.19-28</p>	<p>フィッシャーとクリーブランドの身体像境界得点を用い、身体像の防壁の側面と浸透的側面の比率から「境界型」を4種に類別化し、両側面の組み合わせり方と自我機能の関連を検討した。</p> <p>スチューデント・アパシーの病因について、コフトの自己心理学の観点から検討した。当人の情緒的ニーズとかけ離れた過剰刺激が与えられる関係を病因として検討した。</p>
<p>心理学的支援法</p> <p>心理実習</p> <p>臨床心理実習</p> <p>心理実践実習</p>	<p>(著書)</p> <p>風土臨床—沖縄との関わりから見えてきたもの—</p> <p>(学術論文等)</p> <p>1. 人とかわれないという青年男性の事例</p> <p>2. 競争心についての一考察</p> <p>3. ビオンにおける Container / Contained 論の変遷</p> <p>4. ケースカンファレンスを検討する上でいくつかの論点—特に事例報告者の視点から</p> <p>5. 甲子園大学の子育て支援関連活動</p>	<p>共</p> <p>単</p> <p>単</p> <p>単</p> <p>単</p>	<p>平成18年11月</p> <p>平成8年3月</p> <p>平成9年2月</p> <p>平成9年3月</p> <p>平成19年3月</p> <p>平成21年3月</p>	<p>コスモス・ライブラリー (297ページ)</p> <p>臨床心理事例研究 京都大学教育学部心理教育相談室紀要第23号</p> <p>甲南大学学生相談室紀要第4号</p> <p>京都大学教育学部紀要第43号</p> <p>甲子園大学発達・臨床心理センター紀要第2号</p> <p>甲子園大学発達・臨床心理センター紀要第</p>	<p>pp.158-186</p> <p>pp.67-80</p> <p>pp.13-21</p> <p>pp.117-127</p> <p>pp.80-83</p> <p>pp.27-32</p>	<p>第2章第3節「風土臨床—自然から受け取り、お返しすること」を分担執筆 (青木真理編著、山本正昌輝、山本陽子、橋本朋広、加藤清、青柳寛之著)。自然環境と心の関連について、沖縄の伝統的世界観を手がかりに検討した。</p> <p>相談事例について、心理療法の経過を記載し、臨床的に検討を行った。(実際の事例のため詳細は省略)</p> <p>競争心一般について精神分析学の観点から考察した。「建設的競争心」と、「破壊的競争心」の二型を抽出し、その内的世界の構造的把握を試みた。</p> <p>英国の精神分析家ビオンの Container (器) / Contained (中身) の考え方の特異性と、その概念的変遷について検討した。</p> <p>ケースカンファレンスについて検討する上で、どのような論点があり得るかをレビューした。</p> <p>甲子園大学発達・臨床心理センターで実施してきた子育て支援に関連する活動を、データとともに示し、その内容について検討を加えた。</p>

様式第 4 号 (教員個人に関する書類)

	(その他) ものの見え方について	単	平成 31 年 3 月 31 日	4 号 甲子園大 学発達・ 臨床心理 センター 紀要 第 13・14 合 併号	Pp28-29	教員による「臨床雑感」への寄稿。もの の見え方による臨床の違いと、ケースへ のコメントを聴く際に、発言者のもの の見え方を想像することの重要性につい て考察した。
--	---------------------	---	---------------------	--	---------	---